

飛騨高山 音声ガイドマップ

～歴史と文化のふれあい散歩編～



音声ガイドのご利用方法

音声は番号順に関係なくお聞きいただけます。

◎スマートフォンから

QRコードを読み込んでいただくと、音声ガイド一覧が表示されます。地図上に記載された番号を選択すると音声ガイドを聞きながら、まちあるきをお楽しみいただけます。

※インターネットへの接続が必要となります。
※ご利用の際の通信費はお客様のご負担になります。
※歩きスマホは危険ですのでおやめください。

◎音声ガイド専用端末から

専用端末を借りて、地図上に記載された番号を選択すると、音声ガイドを聞きながら、まちあるきをお楽しみいただけます。

貸出場所：中橋観光案内所
中橋(赤い橋)近くの赤レンガの建物

受付時間：9時～17時

※専用端末のレンタルの際、預り金1,000円をいただきます。
預り金は端末のご返却時に返金いたします。

新型コロナウイルス感染症予防のため、「マスク着用」や「手洗いの徹底」などにご協力いただきますようお願いいたします。
※本事業は、観光庁「あたらしいツーリズム」の一環で実施しています。



飛騨高山
音声ガイドマップ
WEBサイト



ミニコラム①

現代へと続く、「飛騨の匠」のものづくり精神

「飛騨の匠」とは、木造建築に優れた技術者集団の総称です。歴史は古く、1300年前の奈良時代に遡ります。この時代、木材の扱いに長けていた木工技術者が全国で唯一飛騨地方から都へと定期的に派遣され、寺社や都の造営に従事していました。やがて彼らは「飛騨の匠」として全国的に知られるようになったのです。日下部民藝館や吉島家住宅をはじめ高山のまちなかでも、飛騨の匠が手掛けた建造物を見ることができます。

彼らのすぐれている点は卓越した技術もさることながら、木の性質を見極める確かな目を持っていたこと。何百年もの間、風雪に耐えうる木材を選び、磨かれた技術と感性で建造物の美しさを引き出しています。こうした「飛騨の匠」たちのものづくりの精神は飛騨春慶、一位一刀彫などの伝統工芸品にも宿っています。そして今では木材を使った家具をはじめ、さまざまな産業に継承されているのです。

ミニコラム②

「上一之町」「下二之町」… 数字で呼ぶのはなぜ？

高山城を築いた金森長近は、地形を生かして巧みに城下町をつくりました。城から続く尾根を造成し、高台を武士が多く住む武家のまち、低い方を商人や職人が多く住む町人のまちにしたのです。その境目にあたるのが、現在の「えび坂」です。

高山のまちには、「まちづくりの名手」として知られる金森氏の手腕が随所に発揮されています。

象徴的なのが、古い町並が残る「さんまちエリア」。歩いてみると、辻々や信号に「上一之町」「下二之町」といった名前が記されていることに気がつくはず。この一帯は、高山城に近い方から順に「一之町筋」「二之町筋」「三之町筋」の3本の町筋で区切られています。安川通りを境とし、宮川の上流側が「上一之町」、下流側が「下一之町」といった形で区画され、これらの地域をまとめて「さんまち」と呼ぶようになりました。

24～27は、まちなかのいろいろな場所にあります。イラストを参考に探してみよう！

24 まちのだんご屋 25 秋葉社



26 町家の明かり取りの工夫 27 祭屋台蔵

